



活力に満ちた宇宙事業の展開にむけて

本年6月1日、準天頂衛星システム「みちびき2号機」が、同年8月19日には「みちびき3号機」が種子島宇宙センターから打ち上げられました。今後「みちびき4号機」の打上げが予定されており、2018年のサービス開始に向けて4機体制が確立されます。準天頂衛星システムによるセンチメートル級の高精度な測位補強サービスの提供により、自動車の自動走行・安全運転支援システムやIT農業等の分野で様々な宇宙利用ビジネスの創出が期待されています。当社では宇宙利用の拡大に向け、自動走行・安全運転支援システムの実現に必要な高精度3次元地図基盤データを提供するダイナミックマップ基盤株式会社を設立するとともに、センチメートル級高精度測位補強サービスをグローバルに展開する合弁会社 Sapcorda Services社の立上げをパートナー企業と進めています。

さて、我が国の宇宙政策は、2008年に制定された宇宙基本法により、研究開発中心から利用中心の政策への転換が図られました。また、2016年に閣議決定された宇宙基本計画により、10年間の中長期的な開発・整備計画が工程表として明確化され、産業界にとって事業及び投資の予見可能性を高めるものになっています。本年5月には「宇宙産業ビジョン2030」が策定され、宇宙利用産業の振興と市場ニーズに応じた継続的な衛星開発等による宇宙機器産業の国際競争力の確保、及び海外市場の取り込みに向けた海外展開強化等の指

針が示されました。

こうした政府の取り組みに対して、当社は政府衛星の研究開発と宇宙インフラの構築を通じて蓄積された技術の適用により商用衛星ビジネス等の海外展開を更に推進していきます。国内外の商用衛星市場への取り組みとして、これまで標準衛星バス（DS2000）をベースに国内外の衛星を受注・製造してきましたが、近年の衛星通信の高速大容量化等の市場ニーズの変化に対応するためには、大電力衛星バスの投入が必須となっています。当社は本年4月に宇宙航空研究開発機構（JAXA）より「技術試験衛星9号機」のプライムメーカーに選定され、世界最先端の衛星バスの開発を進めています。この開発を通じて国際競争力のある技術を獲得し、大電力・大容量の全電化衛星の投入により海外市場への拡販に取り組んでいきます。さらに、衛星の品質・コスト・工期等を大幅に向上させ、競争力強化を図るため、新衛星生産棟（2019年稼動開始予定）を建設します。生産能力を増強するとともに、製品企画から設計、製造、試験等に至る全ての生産プロセスでIoT化を推進し、製造コストの大幅削減を実現し、商用通信衛星市場でのシェア拡大を目指します。

当社は衛星システムをはじめとした宇宙機器産業の振興のみならず、宇宙利用も含めた事業展開を進めることにより、活力に満ちた宇宙産業の拡大・発展と科学技術基盤の維持・強化に貢献して参ります。